

令和6年度

事業報告書

社会福祉法人 三星会

特別養護老人ホーム 三納の里

短期入所生活介護事業所 三納の里

三納の里居宅介護支援事業所

目次

I 法人理念	1
II 実施事業	2
III 令和6年度 三納の里職員宣言書達成度	3-4
IV 法人事業	5
V 令和6年度 個人目標評価	6-13
VI 運営報告	
1. 特別養護老人ホーム 三納の里	
(1) 利用者の状況	14-15
(2) ケアプラン	16-17
(3) 生活支援	18
①海の街	19
②光の街	20
③花の街	21
④空の街	22
⑤森の街	23
⑥虹の街	24
⑦彩の街	25
⑧結の街	26
⑨紡の街	27
⑩詩の街	28
(4) 健康管理	29-31
(5) 栄養管理	32-35
(6) 機能訓練	36
(7) 口腔機能維持管理	37
(8) 相談援助	37-38
(9) 実習受入れ	39
(10) ボランティア受入れ	40
日常生活一覧表	40
2. 短期入所生活介護事業所 三納の里	
(1) 利用者の状況	41
3. 三納の里 居宅介護支援事業所	42-44

VII 各種委員会

1. 感染対策委員会	45
2. 褥瘡対策委員会	46
3. 栄養管理委員会	47
4. 衛生委員会	48
5. リスクマネジメント委員会	49-50
6. 防災防犯対策委員会	51-52
7. 福祉用具検討委員会	53
8. 医療的ケア委員会	54

VIII 資料（各種研修会参加実績）

1. 令和6年度 職員研修年間実績表	55
--------------------------	----

I 法人理念

「私の人生はよい人生だったと思って頂くために

笑顔・感謝・思いやりをもって支援します」

職員の使命感

盛者必衰。生と死はみんなに平等に訪れる冷厳な事実である。

諺に「終わり良ければすべて良し」とある。長い人生のなかで楽しかったこと、苦しかったことも多くあったであろう。でも、今この「終の棲家・三納の里」で人生の終焉を迎えるにあたって「自分の人生は良い人生だった」と喜んで次の世へ旅立つことができれば、その人にとって最高に幸福な人生だったと言えるのではないだろうか。このような人生の総決算のお手伝いをし、生を全うされるための援助をすることが三納の里に身をおく者の重要な使命である。この使命達成のためにも、利用者のひとりひとは長い人生の経験者であり、社会の先覚者であり、貢献者であるという尊厳と畏敬の念をもって温かく接していかなければならない。われわれは、少子高齢社会という国家的課題解決の一翼を担っていることを自覚し、誇りとして身を捧げなければならない。

そのことはひいては自分自身の豊かな自己実現にも役立つものと信ずる。

II 実施事業

1. 第一種社会福祉事業

(1) 特別養護老人ホーム 三納の里

2. 第二種社会福祉事業

(1) 短期入所生活事業所 三納の里

(2) 生計困難者に対する相談支援事業

3. 公益事業

(1) 居宅介護支援事業所 三納の里

Ⅲ 令和6年度 三納の里職員宣言書達成度

1. 利用者の方がこの施設で良かったと思って頂けるようにケアをします。

- ・みんなで1人1人に合った生活を考え、ケアを提供します。
- ・感染症の状況をみながら、家族や地域とのつながりを考え交流の機会を確保していきます。
- ・施設環境を整え、利用者の方が安心、安全に生活できるように環境整備をしていきます。

カンファレンス等を通して、多職種連携を図り利用者の生活、ケアを提供してきました。コロナウイルス感染症の影響で感染が発生したユニットについては、一時閉鎖を行いながら対応してきました。感染状況が比較的落ち着いている段階においては、時間や人数の制限を設けず自由な面会の機会を確保する事で家族との交流の機会を確保する事ができた。

施設の老朽化も進んでおり、必要な修繕を実施してきました。引き続き安全な施設環境に努めていく。

2. 生産性向上の取組を行いながら、ケアの質の維持、向上に努めます。

- ・チームアプローチの実践のため、職員教育を充実させ働きやすい職場づくりを目指します。
- ・生産性向上の取組を推進し職員の身体的、精神的な負担を軽減させ、サービスの質の維持、向上を図ります。
- ・関係機関、系列法人との連携を深め多方向によるサービス提供をしていきます。教育体制の充実については、全体研修会の中で法定研修を含めた研修の実施を行っている。法定外研修への参加があまりできておらず、教育体制の充実には至っていない。

生産性向上の取組については、生産性向上委員会の設置と各ユニットの取組において、生産性向上への計画、実施、評価を行っている。また、令和6年度 ICT 事業においてインカム、勤務シフト作成ソフトの導入等において、更に生産性の向上に取り組んでいる。

関係機関、系列法人との連携はできており、情報交換、共有などを密に行い継続

してサービスの維持に努めていく。

3. 地域資源としての役割を果たします

- ・地域住民と連携を取り、地域活動に貢献します。
- ・開かれた施設作りを目指し、利用者と地域の方々が交流できる機会を作ります。
- ・法人としての役割を再考し、地域福祉に寄与します。

地域住民との交流については、コロナウィルスの影響もあり夏祭りやクリスマス会などの交流行事も実施が困難であった。一方で面会においては、感染状況が穏やかな時には解放し、家族以外の面会も可とする事で交流の機会は確保できたのではないかと考える。

法人として地域福祉、地域貢献までの事業は展開できていない。今後の課題とする。

IV 法人事業

1. 理事会

(1) 第1回理事会

決議日：令和6年5月29日

議案：第1号議案 令和5年度事業報告の承認について

第2号議案 令和5年度計算関係書類及び財産目録の承認について

第3号議案 監事監査報告について

第4号議案 令和6年度定時評議委員会の招集について

第5号議案 就業規則等の新規制定並びに変更について

第6号議案 評議員選任解任委員の就退任について

(2) 第2回理事会（書面開催）

決議日：令和6年11月25日

議案：第1号議案 介護ロボット等の導入について

第2号議案 特定技能外国人 一時帰国支援制度規程の新規制定について

(3) 第3回理事会

決議日：令和7年3月31日

議案：第1号議案 令和6年度最終補正予算案について

第2号議案 令和7年度事業計画について

第3号議案 令和7年度当初資金収支予算案について

第4号議案 育児・介護休業等に関する規則の変更について

第5号議案 給食業務委託契約締結について

2. 評議員会

(1) 第1回評議員会

日時：令和6年6月19日

議案：第1号議案 令和5年度事業報告について

第2号議案 令和5年度計算関係書類及び財産目録について

第3号議案 監事監査報告について

第4号議案 評議員退任の報告について

V 令和6年度 個人目標評価

職名	氏名	評価
施設長	緒方 清孝	令和6年度の離職率については10%であった。離職については、続いている状況もあり入職促進、職員の定着について継続して働きやすい職場づくりに努めていく
介護部長	佐藤 佳代	感染対策以外の期間は、スムーズに余暇の行事も実施することができた。今後ユニット活動が活発となる様に支援していきたい
ユニットリーダー	中武 秀仁	入居者が楽しく過ごしてもらえるように本人に合わせて対応する事を心掛けたが、実際の所、自分の仕事で手いっぱいであり他の事に目を向ける事が出来なかった。もう少し自分に余裕を持ちやっていけるようにしていきたい。知識の向上についても、自分からの研修参加などできなかったのが今後そういう事があれば参加出来る際はしていくようにしていきたい。
ユニットリーダー	黒木 由記	ユニット職員と意見交換を積極的に行い、その都度業務見直しを行っている。 知識向上についてはケアマネの試験を受け、知識向上に努めている。
ユニットリーダー	濱砂 誠二	・技能実習生に向けた指導については、わからない言葉やケアの内容などがあればその都度立ち止まり分かるまで説明することができた。 ・資格取得については、諸事情により受けていない。
ユニットリーダー	河野 孝司	・体調やストレス管理については、インフルエンザに感染したり、ストレスを溜め込む事があり、なかなか思う様に行かない現状があった。 ・入居者様のニーズに関しては、感染対策もあった中で、出来る範囲にて対応していた。

職名	氏名	評価
ユニットリーダー	井上 徹	日によってショートステイ利用者の人数変動あったが、その分心に余裕を持つ事ができその都度入居者、利用者に対し1対1でコミュニケーションを図ることができた。
ユニットリーダー	細山田 貴之	ユニット職員と協力してユニットの雰囲気作りに取り組む事が出来た。
ユニットリーダー	井上 邦夫	日々考える事を忘れず仕事ができ、他職員とも情報共有しながら行えた。
ユニットリーダー	安藤 誠	感染対策を行いながら制限もあり入居者やご家族の想いに添えない事もあった。
ユニットリーダー	宮本 泰昌	体調管理をしっかりと行う事が出来た。入居者様とのコミュニケーションに努め反映できたと思う。
ユニットリーダー	津江 美穂	リーダー不在や職員の体調不良などがあったが、皆と協力し業務を遂行する事ができた。
介護職員	小森 ルミ子	入居者様と会話を多くして、寄り添ったケアに当たれたと思う、継続して続けていきたい。
介護職員	高佐 めぐみ	入居者への落ち着いた過ごしただけのような支援・声掛けは気を付けながら心掛けて行えた。今後も気持ちに余裕を持って接していきたいと思う。
介護職員	井上 雄一	こまめな声掛けができ、声掛け時笑顔や会話が多く見られた。
介護職員	安藤 晋人	多職種と連携することが以前に比べできるようになった。生活面でも規則正しく生活できるように心がけている。
介護職員	三樹 裕太	体調面は業務に支障をきたすことなく過ごせた。スキルアップは出来ておらず、来年度行えるよう頑張りたい。
介護職員	井上 麻依子	仕事に対してモチベーションが上がらず、前期は仕事に対して消極的であったが、後期はユニット内で積極的にコミュニケーションを取りながら問題解決に取り組めた。

職 名	氏 名	評 価
介護職員	緒方 志教	体調を崩してしまい、達成する事が出来なかった。
介護職員	中田 英明	体調管理が出来てなく、今後は体調管理に気を付け、自己管理していきたいと思います。
介護職員	藪押 ちよみ	仕事と家庭の両立は出来ていたが子供の進路や仕事でストレスは解消できなかった。体調面も風邪を3回ほどひいてしまったので気を付けようと思います。
介護職員	竹田 美保子	体調管理を行うと共に入居者様の日頃の様子や行事などのブログの更新を行っていく。
介護職員	坂本 治子	余裕をもって個々に合わせたケアを心掛けていたが、時間と業務に追われ向き合ったケアが出来なかった。今後も引き続き個々に合わせ余裕をもってケアを行っていきたい。
介護職員	緒方 和也	声掛け等に注意しながらケアを行うよう心掛けていたが、少し口調が強くなってしまう事もあった為、今後とも注意してケアを行っていきたい。
介護職員	野々垣 香子	体調管理に努める事を目標に上げていたが体調を崩してしまい短期であったが療養していた。継続して体調管理に努め万全の体制で業務に努めていく。 ケアをする中で、気持ちに余裕を持った声掛けに努め、小さな気付きを大切に、他職員と情報共有・コミュニケーションに努める事を目標にしていたが気持ちに余裕を持った声掛けはあまり出来なかったが、他職員との情報共有に努める事は出来た。 資格試験勉強は殆ど実施できていなかった。
介護職員	安藤 理恵	健康に過ごせ家事・仕事に励む事が出来た。
介護職員	日高 夏美	体調管理に努めると目標に立てたが、体調を崩す事や欠勤・早退をすることがあり他職員に迷惑をかけてしまった。

職 名	氏 名	評 価
介護職員	関屋 美紅	入居者の方の笑顔を大切に仕事が出来た。
介護職員	津江 彩音	気を付けていたが、体調を崩すことが何度かあった。 昨年よりもできる事が増え、よりよいケアを行うことができた。
介護職員	小松 凜音	利用者様とコミュニケーションを図り、日々の経験を通して一人一人にあった介護技術を習得する事が出来た。
介護職員	安藤 晴樹	毎日笑顔で業務、コミュニケーションを取れていたと思う。
介護職員	荒川 健斗	担当は持つ事ができなかった。仕事も以前と変わらない内容を行っている。利用者をよく見る事に注力したい。
介護職員	黒島 真由美	自身の業務の流れで進める事で精いっぱい、全体の業務の流れが把握できていない。
介護職員（出向）	倉永 龍蔵	業務も把握でき何とか実施出来ている。今後も体調管理に努めていき、三納の里の伝統を吸収していく。
介護職員 （特定技能外国人）	王 永鳳	介護の知識と技術向上に努めている。 入居者安心に介助し、良い生活の雰囲気を作ることができるよう努力している。 日本語能力試験 N1 資格取得ができなかった。
介護職員 （特定技能外国人）	リンブ バルサ	・入居者様の安心・安全を守るために今後も安全な介護に努めていきます。 ・日本語能力試験 N2 を取得できた。
介護職員 （特定技能外国人）	ティン タマン タラ デビ	日本語 N3 レベルを合格・仕事に入居者が言っている事など分かるようになりました。
介護職員 （特定技能外国人）	タマン アス	日本語と仕事で上手になって入居者様の安全な介護をする。
介護職員 （特定技能外国人）	サヒ ママタ	日本語も理解できるようになり、自分の伝えたいことも話せるようになった。 一人での勤務もおこなえるようになった。

職 名	氏 名	評 価
介護職員 (特定技能外国人)	ネウパネ クスム	早番ができるようになり、入居者様と話せるようになりました。
介護職員 (特定技能外国人)	タパ・マガル・ズニマ	1日の流れにそった仕事が徐々に出来るようになった。 日常会話はどうかでき入居者の皆さんとの会話も出来た。尚、漢字が難しく意味が分かりにくい為、その都度、職員の皆さんに聞いている。今後、しっかり勉強していきたい。
介護職員 (特定技能外国人)	ラナ・マガル・プジャ	体調を崩すことなく仕事ができ、入居者様と少しずつ日本語で話せるようになった。
介護職員 (特定技能外国人)	スナール・サミクシャ	日本語の勉強がまだじゅうぶんでない。
介護職員 (特定技能外国人)	オリ・チェトリ・プランジャル	最初の時日本語は中々わからなくて仕事の事をあまり出来なかったもっと日本語を頑張って来年まで出来るようになりたい。
介護職員(嘱託)	福永 義廣	日常から積極的に声掛けを行い冗談を言ったりして笑いを引き出したり若い時のお話を聞きながらここでの生活について不便はないかなど楽しく生活されるようにお手伝いしている。
介護職員(嘱託)	吉岡 三智子	入居者にあった声掛けができた。入居者が楽しく過ごせるように考えて仕事できた。
介護職員(非常勤)	渡邊 祥子	大きく体調を崩すことなく、家庭と仕事の両立を達成できた。
介護職員(非常勤)	金丸 幸子	早めに病院受診し体調管理に努めながら、無理なく家庭と仕事の両立ができた。
介護職員(非常勤)	平 加奈子	室内の清潔感を今後も徹底したい。 心にゆとりが無いため気配り、コミュニケーションを向上する。
介護職員(非常勤)	吉野 望	日頃から笑顔で元気よく接することができていたが、業務に追われて声掛けに余裕がなくケアできないこともあった。

職名	氏名	評価
介護職員(非常勤)	児玉 裕美	ゆっくり座って話を聞いたり話す事は出来なかったが、笑顔が見られるような声掛けは心掛け出来た。今後もコミュニケーションを取りながら笑顔が見られるようにケアを行う。
介護職員(非常勤)	野田 洋子	安心してもらえるように声かけを行っていたが、時間に追われていてうまくいかなかった所があり、これからは余裕をもってケアをしたいと思っています。
介護職員(非常勤)	倉永 由紀子	家族の高齢化もあり、生活支援等で、又、自分自身の入院など何かと休みを取る事が多くご迷惑をかけすみませんでした。
介護職員(非常勤)	緒方 知恵子	体調不良で欠勤することなく、業務にあたる事ができた
介護職員(非常勤)	肥田木 典子	・子どもの体調不良で休みをもらいユニットに迷惑をおかけする事があった。まだまだ子どもが小さいので、来年度も迷惑をおかけしてしまうと思うがユニットの職員やご利用者様に感謝の気持ちを忘れずに元気に仕事に取り組む。
介護職員(非常勤)	荒川 千恵子	体調管理に気を付けながら、仕事ができたとと思います。
介護職員(非常勤)	長友 唯	未経験で入職して、知識も分からないので資格取るために日々勉強を頑張りたいです。
看護部長	吉田 絵美子	・今年度は入院人数多く出してしまう重度化になってしまっていた為、亡くなるケースが多かった。もっと早く発見し予防、早め入院に繋げていくためには介護職と上手く連携を行っていく事、来年度は意識して動いていきたい。 ・看護職員1人1人に耳を傾けて常に一緒に考えていき動くことができた。
看護職員	海野 麻奈美	・体調面の管理ができ精神面の安定は図れていたが、仕事面での苛立ちは多々あった。苛立ちが強い時は言葉遣いがきついこともあったかもしれない。

職 名	氏 名	評 価
看護職員	黒木 美和子	看護業務の振り返りが出来ても忘れてることがあり記録や連絡漏れがあった。
看護職員	古荘 涼士	体調管理に努める 利用者様のバックグラウンドの把握に努める
看護職員（嘱託）	猪野 恵子	自己管理能力は維持できたと思う。感染対策については施設にてインフルエンザに罹患してしまい十分な対策ができなかった。
看護職員（嘱託）	伊藤 美代	・誤字脱字については記録時には気を付けていたが、減らなかった。気づいたときには訂正していた。
機能訓練指導員	黒木 誠	・コロナ感染対策のためケースカンファレンスなど出来ない時もあったが、多職種との連携は取れていたと思う。 ・膝は痛かったが仕事には支障なかった。
支援相談部長 生活相談員	津嶋 賢吾	デジタル研修、クレーム対応研修に参加。介護 DX について学びを深めた。今後も DX 化を目指し、知識強化していく。
介護支援専門員	手塚 季一	ご利用者の気持ちに寄り添えるよう、相手の話を遮ったり、否定したりせず、しっかりと話を聞き、目線を合わせて笑顔で相槌を打ったり、相手が聞き取りやすい声の大きさ、スピードで話すことを意識した。
介護支援専門員	松田 明	昨年度は老人福祉施設の研究発表大会や、クレーム対応などの研修に参加した。今後は自身でも参加したい研修の提案などを行っていきたい。
介護支援専門員	押川 智子	毎日ユニットへ訪問し入居者、利用者との交流を図り信頼関係の構築に努めた。 新規利用者は昨年同様の推移を保っているが定期利用者の減少が重なり稼働の低下に繋がった。
介護支援専門員	山田 洋也	昨年度は研修に予定どおり参加出来た。自己研磨にも繋げる事が出来た。健康管理については、大病をする事なく活動的に仕事に従事出来た。

職名	氏名	評価
栄養管理部長 管理栄養士	吉永 高子	多職種と協働することで入居者の細かい変化にも早めに気づき、食事の面からもケアにあたることができたと考える。
管理栄養士	南 香織	家庭と両立出来るよう努力は出来た。カフェやパン屋等行事も再開し、利用者様へ楽しみの提供も出来た。
事務職員	谷村 麻衣子	自分なりに体調管理ができたと思う。ストレスをためないようにしていきたいと思います。
事務職員	俵 結衣歌	事務所内や他職種との伝達が上手くいかないときもありましたが、状況に合わせた行動が少しずつできるようになった。業務の中で、詰めが甘いところがあるので、そこを気を付けていきたい。
事務職員	柿原 章大	電話対応は完璧には行かなかったが、各部署への取次ぎは対象なりともできたと思っている。また急な病院受診や特定技能外国人対応で思うように動けなかった。
車両係（嘱託）	平田 俊夫	現場職員からも色々と指導を受けながら気づかされる点多かった。今後も更に色んなところに目を配っていきます。
車両係（臨時）	上杉 英昭	中々、厳しい目標で20%ぐらいしかやれていません。この目標は再度やってみたいと思います。
清掃員（非常勤）	吹井 貴大	トイレや手すり、ガラスなどきれいにすることができました。草むしりや草刈り後の草を集めたり、ほうきできれいに掃くことができました。

VI 運営報告

1. 特別養護老人ホーム 三納の里

(1) 利用者の状況

介護度別利用者状況 (延べ数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	31	0	0	0	0	0	0	0	153
要介護2	90	93	90	93	93	69	91	90	93	93	84	93	1072
要介護3	631	625	579	602	558	618	651	603	557	521	505	571	7021
要介護4	1189	1261	1281	1270	1216	1166	1196	1101	1325	1417	1232	1341	14995
要介護5	797	829	813	807	841	806	793	835	720	711	656	651	9259
計	2737	2839	2793	2803	2739	2659	2731	2629	2695	2742	2477	2656	32500
稼働率(%)	96.0	96.4	98.0	95.2	93.0	93.3	92.7	92.2	91.5	93.1	93.1	90.2	93.7
平均入居者数	93.4	94.7	94.9	92.4	92.7	92.9	92.6	91.2	93.4	91.7	88.4	86.3	89.2

実人数・入院者状況・入退居者状況 (各月末)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
前月末入居者数	94	94	95	95	92	92	93	92	94	90	88	87		
上記内入院者数	1	2	3	1	3	3	7	4	5	6	0	0	35	
新規入居者	在宅	1	1	0	1	0	0	3	2	1	1	0	10	
	医療機関	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	7	
	老人保健施設	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	4	
	他施設等	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	計	2	1	1	1	1	3	3	3	3	1	1	2	22
退居者	在宅復帰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療機関	1	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	7	
	老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	他施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	死亡	1	0	0	4	1	1	3	1	0	5	2	2	20
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	2	0	1	4	1	2	4	3	1	6	2	2	28	

介護度状況（令和7年3月31日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	0	0	5	10	7	22
女性	0	3	14	36	14	67
計	0	3	19	46	21	89

年齢別・性別状況（令和7年3月31日現在）

	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計	平均年齢
男性	0	1	0	2	7	10	1	21	89歳2ヶ月
女性	0	0	1	9	15	36	6	67	90歳2ヶ月
計	0	1	1	11	22	46	7	88	89歳11ヶ月

在所期間（令和7年3月31日現在）

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	計	平均在所期間
男性	6	6	1	7	1	0	21	3年6ヶ月
女性	11	32	13	8	2	1	67	3年1ヶ月
計	17	38	14	15	3	1	88	3年2ヶ月

(2) ケアプラン

● 援助目標

- ・施設理念に基づき、入居者のニーズを集約し、自律支援が実現できるようケアプラン策定に取り組む。
- ・入居者支援のための組織的な連携、仕組み作りを行う。

● 実施内容及び反省・課題

令和6年度ケアプラン作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	2	1	1	1	1	3	3	3	3	1	0	2	21
更新	12	10	4	9	11	8	10	7	10	8	6	5	100
退院		2	1							1			4
看取り			2			1				2	1	1	7

令和6年度ケースカンファレンス実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定期	36	32	27	34	33	27	38	33	24	39	31	22	376
看取り			2	3		2				1		4	11

令和6年度サービス担当者会議件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	14	13	8	10	13	16	15	10	13	12	8	9	141

【評価】

令和6年度のケアマネジャー体制は、担当が松田（50名）、手塚（40名）押川（5名+短期入所）で対応した。

新規入居者の対応は、入居時に適切に聞き取りを実施、暫定プランを作成して、プラン期間中にしっかり生活状態を観察、アセスメントして本プランに移行できるように担当者会議を行い、家族の同意を得た。

退院時や心身の状態により、変化するニーズに合わせてプランを調整し、認定期間が2～3年の入居者は状態に変化が無くても1年を目安に計画書の見直しを行い、家族の意向の確認や各専門職からの説明で連携を行った。

ケースカンファレンスは、多職種と連携して定期的に行い、栄養プラン、個別機能訓練プランと連動して行った。施設内では多職種協働に心がけ、状態が不安定な入居者には、定期カンファレンスとは別に随時集まって意見の集約を行い、適切なプラン作成を行った。機能訓練指導員が理学療法士であり、専門的な意見交換のもとに対応が出来るようになっていて自立支援につながっている。

モニタリングは、カンファレンスの月に確認を行い、各ユニットとの連携を密にして、変化に合わせて個別ケアにつなげるように心がけた。

看取り状態になった時には、協力[u1]医療機関と連携し家族に意向の確認を行い、週に1回を目安に定期的なカンファレンスを行い、ご家族が不安なく本人と一緒に最期を迎えることができるように支援した。

(3) 生活支援

● 援助目標

- ・三納の里の理念を念頭におき、入居者一人ひとりの生活習慣や好みを尊重し、今までの暮らしが継続出来るように支援する。
- ・職員一人ひとりがユニットケアの理解を深め、三納の里の取り組みを継承していく。
- ・介護知識、技術を習得し、統一した質の高いケアを提供する。

● 実施内容及び反省・課題

1. 入居者・職員の関係作り（なじみの関係）を大切にする。また、入居者それぞれの 24 時間の暮らしぶりを知り、職員の共通認識のもと、ケアの統一を図る。

【評価】

職員の固定配置にて、なじみの関係は大切にできている。特定技能実習生がユニットに 1 名以上は配置しているが、情報共有・申し送りを徹底し、多職種にてケアの統一を図っていく。

2. 入居者が自分の住まいを思えるような環境を作る。

【評価】

ご家族が居室に立ち入れない為、特にこの時期に入居された方の居室設えが十分ではなかった。ユニットリビング内は季節感が出せていた。

3. 24 時間シートを活用し、今までの暮らしを続けてもらえるような環境をつくる。

【評価】

24 時間シートの活用がうまくできていなかった。ユニットミーティングやケースカンファレンス時に、見直しや活用することで暮らしを支えていく。

4. 24 時間の暮らしを保障する仕組みを作る。

【評価】

仕組みは施設全体でできているが、介護職員がその仕組みの根拠を理解していない場面が多々ある。それを理解したうえでのケアを行えるようにしたい。

5. 常に入居者のケアについて考え、また介護の知識、技術を学び、質の高いケアを提供する。

【評価】

外部研修の参加が十分に行なえておらず、知識・技術の学びは個人に任せている状態となっている。ケア技術部の取り組みにて、技能実習生を対象とした研修会を実施できた。

①海の街

● 目標

- ・入居者様の施設での生活が自分らしくまた楽しい生活が送れるよう支援していく。
- ・研修やユニットケア、施設についてなど自主的に勉学に励み自己研鑽に努めていく。

● 活動計画

1. 外部又は施設やユニット内の勉強会に積極的に参加、また自己学習を行い知識や技術の向上を図っていく。

【評価】

感染対策等もあり、積極的に参加することが難しかった。
技能実習生は、委員会の勉強会に参加できた。

2. 入居者のケア方針について。出来ているかの確認をその都度し、どうしたら出来るのかを考えていく。ケアプランに則り多職種との連携を行いケアの方向性を決めていく。

【評価】

ミーティング時にケアの検討や統一ができていのか確認・話し合いができた。

3. 季節に合わせてリビングの設えを変更していく。また中庭の花やユニット内の花等を増やし、季節感を味わって頂く。入居者様に外の花を見る機会を設けていく。

【評価】

担当職員が主となって取り組んでいた。
夏野菜等も収穫しスープ等で入居者に提供し味わってもらえてよかった。

4. 日頃から入居者や家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係作りに努める。

【評価】

面会時等日常の様子や近況報告を行うことができたが、面会になかなか来られないご家族へのアプローチは欠けていた。

● ミーティング

ユニットミーティング：第4木曜日 15時開催

②光の街

● 目標

- ・入居者様が三納の里での生活が楽しいと思えるように、またそのご家族様も安心して頂けるような支援を行っていく。

【評価】入居者やそのご家族、職員間でも笑顔で接して支援を行えた。

● 活動計画

1. 三納の里理念の『笑顔、感謝、思いやり』の気持ちを常に持ち、支援していくことに努める。

【評価】ユニットスタッフの意見、ケースカンファレンス等での他職種の意見を聞きながら、それぞれが理念に沿って支援を行えた。

2. 入居者の不利益に繋がらないように、支援の本質をしっかりと捉えて職員都合の支援を行わない。

【評価】三納の里の基本理念を基に入居者視点で行えるようにしていたが、出来ないこともあった。

3. ユニット内での情報共有をしっかりと行い、ユニット職員がその情報を以って多職種との連携が取れるようにする。

【評価】ユニットの申し送りはパソコンでの管理を行っている。常に情報更新できるような個々の職員にも追記、添削を担ってもらい、リーダー不在時でも情報の共有がユニット職員間、他職種間でも行えるようにしている。

4. 入居者のご家族様との関係性をより良く繋いでいく為、面会時は積極的に声を掛けていく。

【評価】面会時には必ず近況報告を行えるよう申し送りを活用して行えた。

5. ユニットは入居者の生活の場である事を忘れず、言葉選び、言葉かけに十分注意する。

【評価】丁寧な声かけを行う様周知してはいたが不十分なこともあった。

● ミーティング

- ・月1回原則とし行い、開催日はシフト作成時にリーダーが決定する。

③花の街

● 目標

- ・入居者の小さな変化やサインに気付き、一人ひとりの心身の状況にあった、適切で丁寧なケアを提供、情報を共有し、ケアの統一を行っていくために職員が意見を出し合いやすい環境を作り、問題点の対応、記録・申し送りの徹底を行う。

【評価】入居者様一人一人を細かく観察するように努めた。皮膚トラブルの見逃しなどあり十分とは言えなかった。申し送りに詳細を記載し情報共有を行いその点はうまくいっていた。

● 活動計画

1. 入居者の日々の観察（身体状況・表情・生活状況等）をし、小さな変化にも早期に察知できるように、日々の報連相を徹底し、申し送りや記録に残す等情報共有に努める。また、ユニットスタッフ間の意見交換を積極的に行い、否定することなく互いの思いを理解し合えるようにする。

【評価】スタッフ間ではこまめな連絡交換はできていた。スタッフによっては発言の少ないスタッフもおりもう少し意見を引き出せればと思った。

2. 入居者が快適に過ごせるように、リビングや居室の掃除の徹底（ゴミや食べ物が落ちていたら拾う、定期的なフィルター掃除、電球交換等）を自ら行うことができる。

【評価】環境整備と衛生環境についてはその都度対応した。備品が足りないときは申し送りに記入し情報共有に努めた。

3. ご家族との連絡や面会時の近況報告など、情報共有を密に行い、ケアに反映する事と信頼関係の構築をしていく。

【評価】面会時間の制限も少なくなり面会に来られるご家族が増えた。その都度近況報告行い情報交換ができた。

4. 季節感を感じて頂く為に、花などを飾り、リビング、玄関の設えに気を配っていく。

【評価】定期的に切り花を購入し玄関やリビングに飾っている。季節により設えを入れ替え四季の移り変わりを感じてもらったと思う。

● ミーティング

月に1回 12時半より開催

【評価】職員不足や時間が足りないこともあり書面での開催もあった。十分な時間は取れないこともあったが限られた時間で話し合えることを行った。

④空の街

● 目標

- ・三納の里の理念に沿ったケアを実現する。
- ・ユニット職員それぞれが常に改善の意識を持って業務を行っていく。

評価： 三納の里の理念に沿ったケアが出来ていたかどうか分からないが、それに知被けるように笑顔と感謝思いやりの気持ちを持って仕事を行う事が出来た。
改善対策を行い少しでも職員の仕事が円滑に回るように考える事が出来た。

● 活動計画

1. 職員間での情報共有とケアの統一のために報連相の徹底と声掛け合いながら仕事を進めていく事を心掛ける

評価： 職員間での情報共有はうまく声掛けしながらいえたと思われる。申し送り表などを活用し申し送り抜けがない様に確認し分からない時には記録を見て確認したりその日の出勤者に確認する事が出来た。

2. 季節に応じた設えを行い、入居者の方々に四季の移り変わりを感じながら過ごして頂く

評価： その都度設えを変更し季節を感じてもらえたと思われる。

3. 施設行事やユニット内での活動時に写真を撮り印刷まで行い、入居者に喜んでいただくだけでなくご家族に対しても近況報告に活用する。

評価： 家族面会時に近況報告を行う事が出来た。また電話連絡する事も度々ありその都度コミュニケーションを図れた。写真を印刷したりすることまでは出来ていなかった。今後はそういうところまで目を向け、日々の生活の中で写真を撮る事も気にしながら家族に写真を渡していけるようにしていく。

● ミーティング

月1回開催。

⑤森の街

● 目標

一日一回でも笑顔になるような声掛けや対応を心掛けて今以上に互いの関係性を深めることができる。

● 活動計画

1. 普段から入居者の様子をしっかりと観察し小さな変化にも気付けるよう職員間で情報を共有することができる。

【評価】職員一人ひとりが入居者の状態像をある程度理解でき、体調が悪くなる前のサインを見逃さず報告出来ていた。

2. 温かみのある、清潔な生活空間を作るよう心がけます。

【評価】職員一人ひとりが清潔を意識して綺麗にすることができていた。

3. スピーチロックや威圧的な対応で入居者の行動や生きがいを制限しない様にする。

【評価】忙しくなり気持ちの余裕がなくなった時に「ちょっと待って」など言葉の拘束を使ってしまうことがあった。威圧的な対応はなし。

4. 洗濯物たたみやお盆拭きなど入居者が行える軽作業をしてもらい能力の維持に努める。

【評価】日常的に洗濯物やお盆拭きなどをしてもらうことでADLの維持に努めた。

● ミーティング

各月1回を原則として、基本的に月末の14時に開催とする。

※各月における各入居者の暮らしの在り方、ケア内容の確認や協議を中心に展開する。

⑥虹の街

● 目標

- ・入居様が安心して自分らしく暮らしの継続ができるように、職員一丸となりユニット運営を行っていく。

【評価】一人ひとりに触れ合い寄り添うことができ、安心できるユニット運営ができた。感染対策等あったが、丁寧なケアを心掛け実行する事ができた。

● 活動計画

1. 入居様が楽しく過ごす事が出来るように、お茶会を含めユニット内の活動の充実を図っていく。各季節に応じたイベントの企画の役割を決めて実施していく。

【評価】感染対策に伴い制限はあったが、限られた中で実施できた。誕生日に沿って誕生会を行う事ができない事もあった。今後は入居様が主体となるような取り組みを目指していく。

2. 職員間の連携、報連相を確実に行っていく。また協力ユニットや多職種との連携もこまめに行っていく。

【評価】ユニット内の申し送りの活用、職員間で報連相をしっかりと行い、多職種との連携も円滑に行うことができた。

3. 入居者目線となり四季の移り変わりを感じて頂けるような設えを行う。同時に中庭の活用も行っていく。

【評価】四季に合わせて中庭に花を植え観賞し楽しんでもらえた。リビングの設えも四季を感じられる装いが出来た。

● ミーティング

月に1回実施。ユニット内の問題や改善を目的とする。

14時から15時に開催。日程については事業予定にて決定する。

【評価】感染対策時は紙上で報告行い、感染対策以外では月1回実施した。

⑦彩の街

● 目標

- ・入居者一人一人が自分らしい暮らしを送れる様に支援する。
- ・職員間では『統一したケア』『その方の気持ちになって』をモットーに不満、不安等を与えないようなケアに取り組む。

● 活動計画

1. 笑顔、感謝、おもいやりを忘れず、入居者様、職員問わず毎日を気持ちよく過ごしていける様務める。

【評価】

インフルエンザやコロナの感染症対策にて、入居者様も職員も疲れが見える事もあったが、出来る範囲で対応を行い、不満解消等に努めた。

2. 入居者様の心身の状態を把握した上で、笑いがあふれる温かいユニット作りに努める。

【評価】

上記でも記した様に、疲れやイライラ等もあり、多少の行き違い等はあったものの、良い関係を築ける様に努めており、笑顔を引き出せる関係性を築けている。

3. 中庭の手入れやユニット内の清掃当環境整備をしっかりと行い、四季を感じ取れる設えや空間作りを行っていく。

【評価】

ユニット内の設えや中庭の手入れはユニット職員の協力にて上手に活用できている。

またユニ

ット内清掃や環境整備についてもパート職員や担当職員を中心に行っている。

4. ユニット内だけでは困難な事案については、他部署や協力ユニットと力を合わせ解決に当たる。報・連・相をしっかりと行っていく。

【評価】

CM や看護等と一緒に問題解決にあたる事もあり、また協力ユニットとの連携も上手に活用出

来ている。

● ミーティング

月ごとに日付を決め、14時から15時の間でユニット内、入居者のケアの内容について討議する。

【評価】

コロナやインフルエンザにて、感染対策を行いミーティングを中止するという月があったが、書類上で行える月は行っており、職員間で周知している。また各担当者が入居者様の変化等について職員間で話し合い、上手く問題解決に繋げている。

⑧結の街

● 目標

・短期入所者、入居者ともに分け隔てなく日々の関わりを大切に、満足して頂けるケアを目指す。

● 活動計画

1. 誕生会、お茶会、パン屋さん、体操教室など、行事ごとをユニット内外での活動を行う事ができ、短期入居者、入居者の思い出作りができるよう努める。

【評価】夏季、冬季共に感染流行の時期と被り、ユニット外の行事（カフェ、体操教室、や全体行事の夏祭り、クリスマス会）が中止となった。お茶会は感染時期が過ぎると行えた。ユニット内での誕生会が誕生日の日にその都度行うことができた。

2. ユニットの中からも中庭（花や植物）の様子が見て楽しめるように中庭の環境整備を適度に行っていく。

【評価】中庭の花は定期的に季節の花を植え替えしたいと思っていたが、その都度花の苗の購入ができず一定の時期しか植える事ができていなかった。

3. ケアプランに沿った支援ができ、個々に応じた対応を行っていく。また言葉遣い、ケアの態度に気を付けながら支援行っていく。家族様との関わりも密にしていく。

【評価】食事、排泄、入浴などの日常生活動作やその他、機能訓練面、精神面の関わり方は個々（入居者、ショート者）でそれぞれ違いがあったが、その都度臨機応変に対応できていた。言葉遣いに関しては時々口調が強くめに出る時が見られる職員もいた。今後はその場面に居合わせた時には指導していきたいと思う。入居者、ショート者ともに家族とのかわりはうまく行えたと思う。

4. 関連職種と連携を行い、申し送り、伝達事項など統一したケアを目指す。短期入所に関しては忘れ物をしない。

【評価】栄養士、機能訓練士、ケアマネなど関連職種で上手に連携行うことができ、統一したケアが行えたと思う。忘れ物は何度かあったが、前年度に比べると減ったようにも思える。荷物のチェック入所、退所ともに継続して怠らないようにする。

● ミーティング

月1回、開催とし、勤務作成後リーダーが開催日を決める。

【評価】業務の都合上、できる月、できない月があった。できなかった際でも書面上で書類作成もできていなかった。できなかった月では書類作成しが必要事項（情報の共有、統一したケアの内容など）をまとめていく必要があった。

⑨ 紡の街

● 目標

- ・入居者の小さな変化やサインに気付き、適切なケアが出来るようにし快適に暮らして頂く。
- ・ユニット活動の充実。

● 活動計画

1. ユニット活動の充実を図る。

- ・感染対策にもよるが、毎月のお茶会やイベント企画を役割を決めて行う。
- ・写真撮影も行い、ブログにあげていく。

【評価】感染対策中以外は、お茶会・誕生会行えた。

2. 24時間シートの定期的な更新と、入居者理解に努める。

- ・各々の職員が毎日の入居者の暮らしの中で、気付きを大事にし、職員との情報交換をしっかりと行っていく。
- ・日々の暮らしを快適に過ごして頂く為、家族、本人の意向も聞きながら対応していく

【評価】日々の申し送りやミーティングで入居者対応を協議し、以降も大事にしながらか対応出来た。

3. 職員間連携の強化

- ・入居者の小さな気付きを大事にし、職員間の連携や、報連相を確実に行っていく。また、自ユニットだけでなく、協力ユニット他職種との連携もこまめに行い、感染対策もしっかり行っていく。

【評価】申し送りの漏れが時々漏れがあったり、協力ユニットの情報収集がこまめに出来なかった。感染対策は看護とも協力でき行えた。

● ミーティング

月1回開催とする。勤務作成後リーダーが開催日を決定する。

⑩詩の街

● 目標

- ・入居者様の変化を早期発見し、心身の状態に合わせたケアを日々検討していく。

● 活動計画

1. 入居者様の状況に合わせたケアの見直し、業務の改善を行っていく。
→オムツ交換の見直し、水分摂取量の見直し等定期的に行っている。
2. 申し送りやユニットミーティングを密に行い、状態変化に対応できるよう、情報共有を行っていく。
→毎月一回ユニットミーティングを行い情報共有行っている。また、特変時も申し送り等で情報共有行っている。
3. 入居者様の日々の楽しみに繋がるような行事の企画・実施。
→お茶会や誕生会は定期的に行っている。クリスマス会や敬老会もユニットで行い入居者様に楽しんでもらっている。
4. ご家族様への連絡や、面会時の近況報告など情報共有し、ケアに反映させていく。
→面会時に近況報告行っている。
5. 個人面談を定期的に行い、働きやすい環境を整える。
→半年に一度ユニット職員と面談を行いユニットの改善に努めている。

● ミーティング

- 月1回14時から15時の間で実施する。

(4) 健康管理

● 援助目標

- ・介護と看護の連携からケアの質を高めていき、入居者の健康の保持増進、機能維持、疾病の予防、苦痛の緩和に努めていく。
- ・環境調整を行う事で、健康的な生活環境作りが出来、感染予防に努める事が出来る。
- ・嘱託医等との連携を図ることで、入居者の状態に合わせた対応が出来る。
- ・自己決定と尊厳を守る看取り介護に努める。

● 実施内容及び反省・課題

【反省】

令和6年度は、入院数、入院日数の増加となってしまった。お看取りの数も令和5年度と比べると少なかった。早期の発見が出来ず病院での治療が早めが出来なかったせいか亡くなるケースも多く出してしまった。介護、看護だけではなく他の職種とも密に連携行っていき早めの発見から早期予防に努めていき今後も入院数も減らしていきたい。又入居者様は高齢でもある為ご本人様はもちろんのこと、ご家族様にもご意向確認を常に行い、ご意向にそったケアが出来るように、延命を望まなければスムーズにお看取りに入ることが出来るように動いていきたい。

<看護実績>

○オンコール状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
オンコール	4	7	4	13	0	2	7	2	6	7	12	9	73
(内来設)	1	3	0	7	0	1	0	0	2	2	4	2	22

○予防接種状況

- ・インフルエンザ予防接種

職員…73名

入居者…85名

- ・新型コロナウイルス予防接種

11月：52名

- ・肺炎球菌ワクチン

1名

○他科受診状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	5	8	5	3	5	10	7	7	6	1	4	5	66
外科	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4
整形外科	5	1	5	2	4	8	4	2	1	2	3	6	43
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知外来	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
眼科	1	0	1	0	2	0	0	2	1	1	1	3	12
皮膚科	0	3	4	2	0	3	3	7	3	2	2	2	31
歯科	5	1	2	3	0	2	11	8	11	3	3	6	55
泌尿器科	5	2	3	2	3	2	2	3	0	0	2	3	27
耳鼻咽喉科	1	0	0	0	2	0	0	0	3	0	2	0	8
脳神経	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
循環器科	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
計	23	15	23	15	17	27	28	29	25	9	17	25	253

○入院

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院者数	5	6	2	6	6	9	9	5	7	3	1	2	61
入院延日数	64	95	21	84	153	96	149	76	122	59	1	19	939

○看取り介護実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施者数	1	0	2	2	0	0	0	0	1	2	1	2	11

○入居者の定期健康診断の状況

実施月	対象人数	受診人数	検査内容
6月・7月	95	95	検診車による胸部レントゲン ※リクライニング者は三財病院にて実施 ※看取りの方は中止
1回/3ヶ月	療養食提供者		採血
1回/6ヶ月	一般食提供者		採血
随時	全入居者		EKG施行

○職員の健康診断の実施状況

実施月	対象人数	受診人数	検査内容
6月3日～ 6月28日	31 (夜勤者含む)	31 (夜勤者含む)	全職員：視力・聴力・身長・体重・検尿・BP・ 胸部レントゲンCX-P・EKG 夜勤者：上記および採血・腰部X-P
12月2日～ 1月31日	71	71	全職員：視力・聴力・身長・体重・検尿・CX-P 35歳・40歳以上：上記および採血・EKG 介護職・看護職：腰部X-P

○褥瘡発生状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
発生件数	2	2	3	1	1	7	4	2	3	0	1	2	28

○嘱託医（相澤医師）回診・往診状況

	回診日	往診日
4月	5、12、19、26	2、8、9、10、11、15、18、25
5月	3、10、17、24、31	8、15、16、18、20、21、22
6月	7、14、21、28	5、6、12、13、30
7月	5、12、19、26	6、7、9、10、13、22、23
8月	2、9、16、23、30	3、6、7、10、20、21、28
9月	6、13、20、27	21
10月	4、11、18、25	8、16、24
11月	1、8、15、22、9	2、6、11、12、20、28
12月	6、13、20、27	3、16
1月	10、17、24、31	8、20、21、29
2月	7、14、21、28	4、6、13、19、25、27
3月	7、14、21、28	4、15、25

(5) 栄養管理

● 援助目標

- ・ 栄養ケアマネジメントの手法を用いて、1人ひとりの疾病や嗜好等に配慮した安全でバランスの良い食事の提供をすることで入居者の健康の維持・増進を図る。
- ・ ユニットケアを活かした食事の提供を通して入居者の自立支援を推進する。
- ・ 委託業者との連携を取りながら、入居者の嗜好に配慮した献立作りや行事・季節食を実施することで、楽しめる食事の提供に努める。

● 実施内容及び反省・課題

1. 栄養ケアマネジメント

- ・ 感染症流行および予防のため職員が集まったのカンファレンス開催ができないこともあったが、しっかりと多職種より情報収集し、その時の入居者の状況や体重・血液検査結果等データに基づいたケアプランの変更や作成ができた。また、定期的な栄養ケアモニタリング実施や、日々の食事観察を通して入居者の状況把握に努めることで細かい変化にも気づくことが出来た。
- ・ 看護・介護と協力しオリゴ糖やビフィズス菌等使用しながら腸内環境の改善にも努めた。
- ・ 栄養ケアマネジメントを実施するうえで、医師の指示により療養食を提供する者があった（加算・非加算どちらも含む）。以下に実績一覧表を記す（表1.）。

*表1. 令和6年度月別療養食提供者（延べ人数）

	EC食	NaC食	合計(人)
4月	0	3	3
5月	0	2	2
6月	0	1	1
7月	0	1	1
8月	0	1	1
9月	0	1	1
10月	0	1	1
11月	0	1	1
12月	0	1	1
1月	0	1	1
2月	0	1	1
3月	0	1	1

2. 安全で美味しい食事の提供

- ・ 給食業務委託会社の協力により、咀嚼・嚥下力の低下した高齢者に対し安全で見た目も良い食事（高齢者ソフト食）及び質の高いムース食の継続的な提供が行えた。

3. 食の楽しみの提供

(1) ユニットケアを活かした食事の提供

①ユニット調理

- ・ 基本的に毎週水曜日ユニット職員と給食業務委託業者職員（厨房職員）が協力し、ユニット内で昼食作り（主菜のみ）を行うこととしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のためユニット調理が実施できない週もあった。実施する際は、一緒にお手伝いして下さる入居者もあり、「特別養護老人ホーム等における入居者の調理行為等について（疑義回答）」通知および「家庭で出来る食中毒予防の6つのポイント」に基づき衛生面や安全面に考慮し見守り行いながら一緒に調理することができた。

②お茶会

- ・ ユニット調理同様に新型コロナウイルス感染症拡大予防のためお茶会（おやつ作り）が開催できないこともあった。お茶会実施する場合は、介護職を中心に、季節に合わせた入居者に喜んでいただけるおやつになるよう配慮した。
- ・ 各ユニットの計画書に沿って、介護職へおやつの作り方や注意すべき点、衛生管理について指導を行うことで円滑に活動できるよう支援ができた。
- ・ 目の前でおやつを作る工程を見ること・手伝うことで「調理をする」「自分で作ったものを食べる」楽しさや喜びの提供ができたと考える。入居者によって摂食・嚥下の状態が異なり、食べられる物が違うため、どの入居者にも満足していただけるようなお茶会を今後も継続していきたい。

③その他

- ・ 各ユニット活動にあわせた食事の提供、入居者リクエスト献立の実施ができた。その際も調理指導や衛生面の指導もできているため、今後も継続していきたい。

(2)行事食・季節食

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、大きなイベントの実施はできなかったが、給食業務委託会社と連携し、出来る範囲内で入居者に喜んでいただける季節の食事の提供や駅弁等のイベント食を実施することで入居者に喜んでいただける食事の提供ができたと考える。以下に令和6年度行事食・季節食実施一覧表を記す（表2.）

*表2. 令和6年度行事食・季節食実施一覧

令和6年度 三納の里 年間給食実施表

日	行事名・献立	日	今日は何の日？
4月			
25	日清医療食品 食のイベント「感謝のお食事」	10	駅弁の日「大分県 大分駅 鶏天弁当」
		17	なすび記念日「麻婆茄子」
5月			
16	日清医療食品 食のイベント みんなのフルーツ「メロン」	1	八十八夜「お茶プリン」
		5	端午の節句「お祝い膳」
		6	コロケの日「桜えびのクリーミーコロケ」
		29	こんにゃくの日「こんにゃく酢みそかけ」
6月			
26	日清医療食品 食のイベント スイーツコレクション「アイス」	6	梅の日「さわらの梅マヨ焼き」
		16	麦とろの日「麦とろろご飯」
		27	散らし寿司の日「散らし寿司」
7月			
24	日清医療食品 食のイベント スイーツコレクション「ロールケーキ」	2	うどんの日「肉うどん」
		7	七夕「七夕そうめん」
		24	土用の丑の日「うなぎ散らし寿司」
8月			
21	日清医療食品 食のイベント みんなのフルーツ「白桃」	2	カレーうどんの日「カレーうどん」
		7	バナナの日「バナナ」
		23	天ぷらの日「天ぷら盛り合わせ」
9月			
13	敬老会 「お祝い膳」(敬老の日:16日)	9	重陽の節句「栗ご飯」
18	日清医療食品 食のイベント スイーツコレクション「和栗モンブラン」	17	中秋の名月「お月見ゼリー」
		22	彼岸の中日「お彼岸まんじゅう」
10月			
16	日清医療食品 食のイベント みんなのフルーツ「梨コンポート」	2	豆腐の日「炒り豆腐」
		10	トマトの日「トマトとじゃこの和え物」
		31	ハロウィン「かぼちゃプリン」
11月			
11	日清医療食品 食のイベント スイーツコレクション「鳴門金時ケーキ」	3	文化の日「散らし寿司」
27	日清医療食品 食のイベント 駅弁当 「北海道 札幌駅 海鮮ちらし寿司弁当」	7	鍋の日「寄せ鍋風」
		23	赤飯の日「小豆ご飯」
12月			
11	日清医療食品 食のイベント スイーツコレクション「生クリームどら焼き」	21	冬至「かぼちゃの煮物」
25	クリスマス会 「クリスマスランチプレート+プチケーキセツ」	31	大晦日「年越しそば」
1月			
15	日清医療食品 食のイベント スイーツコレクション「八女抹茶モンブラン」	1	お正月「おせち料理」
		7	七草「七草粥」
		11	鏡開き「せんざい」
		15	いい苺の日「いちごゼリー」
2月			
		2	節分「散らし寿司」
		14	バレンタイン「ハートコロケ・チョコプリン」
		22	おでんの日「おでん」
3月			
		3	桃の節句 春の散らし寿司の日 } → 「お祝い膳」 ささみの日
		14	ホワイトデー「ホワイトシチュー」
		20	彼岸の中日「酒まんじゅう」

◎毎月 1日…散らし寿司、15日…小豆ご飯 ※行事の都合により変更あり。

◎リクエスト献立…月1回(ユニット持ち回り)

4. その他

- ・ 「café なごみ」も新型コロナウイルス感染症流行時は開店していないが開店時は感染症拡大予防のため、入店制限等の工夫をしながら皆さんに楽しんでいただけるよう配慮した。今後も皆さんに喜んでいただけるよう、感染症状況に応じた開店方法を考えていきたい。
- ・ 「居酒屋なごみ」は新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度は開店することが出来なかった。感染症の状況に応じて再開を検討したい。

5. 厨房内業務

(1) 給食業務委託会社との連携

- ・ 入居者からの意見や検食を通した職員側からの意見を参考にしながら、給食業務委託会社職員と一緒に使用する食材や調理方法の検討等を行い、日々の食事の改善につなげることができた。
- ・ 不定期だったが給食連絡会を実施。委託会社と情報共有を図ることが出来たと考える。

(2) 衛生管理

- ①害虫駆除：業務委託にて年 12 回の害虫駆除を実施した。
- ②検便：厨房職員のみ毎月実施。給食業務委託会社職員は委託

(6) 機能訓練

● 援助目標

施設内で安心・安全に生活できるように必要な身体機能の維持を目標に、日常での生活する動作の中での手足の曲げ伸ばしや立ち上がり、立位保持等の支援を行う。また、少しでも残存機能を発揮できるよう環境設定も行っていく。

● 実施内容及び反省・課題

- ・機能訓練計画書策定の流れに添って入居者一人ひとりに対し、機能訓練計画書の作成とケアの実施が行えた。
- ・新型コロナの影響で三か月ごとのケースカンファレンスが出来ない時もあった。
- ・機能訓練指導員による身体機能の評価をもとに機能訓練計画書を再作成し本人またはご家族の同意が必要であるが、なかなか家族に会えずサインをもらうことが出来ない入所者もいた。
- ・機能訓練の実施は計画書に基づき機能訓練指導員、看護職員、介護職員の協力により実施した。介護職員は毎日、生活の中での機能訓練を行い、機能訓練指導員や看護職員は週1回程度の機能訓練を行った。しかし、祝日が続くと週1回も機能訓練ができない時もあった。
- ・新型コロナ感染対策のため一日の中で各ユニットを回れず機能訓練ができない時もあった。平行棒を R4 年 2 月に購入し立ち上がりや歩行の練習が出来るようになった。
- ・体操教室は月に2回（第1金曜日、第3金曜日）の予定であり、新型コロナの影響で2グループに分けて行ったが、開催出来ない月もあった。内容としては頸部、体幹、四肢の体操を行った後にボール回しや風船バレー、輪投げを行った。参加人数は12～13名程度であった。毎回内容が同じであったためバリエーションを増やしていきたい。
- ・アートクラブも月2回（第2水曜日、第4水曜日）の予定であり、体操教室と同じく出来ない月もあったが各ユニットでもしてもらった。内容としては塗り絵、カレンダー作りであった。参加人数は12～13名で毎回同じメンバーであった。内容も同じであり入居者さんの身体レベルに応じてバリエーションを増やしていきたい。

	1か月の実施回数	1回あたりの平均人数
体操教室	2回	12～13名
アートクラブ	2回	12～13名

(7) 口腔衛生

● 実施目標

- ・施設職員によるスクリーニング
- ・施設職員に対する研修会の開催
- ・口腔清掃の方法、内容等の見直し
- ・歯科専門職によるスクリーニング、管理など

● 実施内容及び反省・課題

- ・毎月木曜日に、歯科医師と歯科衛生士が訪問し、各ユニットの入居者1名の口腔状態の確認、口腔ケア方法や口腔ケア用品の指導を受けた。
- ・入居者の口腔状態に鑑み、必要に応じ、協力歯科医療機関と連携し、受診（往診）にて対応した。

(8) 相談援助

● 援助目標

- ・入居待機者が円滑に入居出来るよう、待機者の実態把握を名簿にて管理し、優先される対象者を名簿の中であらかじめ明確にする。又、入居待機者やそのご家族の疑問や心配事への相談に応え、必要な支援、援助を行う。
- ・多様な入居受入れ方法を検討し、入居待機者の受入れを行い、且つ適切な入居判定及び入居の支援を行い、安定した稼働を図る。又、様々な関係機関との連携を密に取り、経営基盤の強化を図る。
- ・次年度の介護報酬・診療報酬の同時改正を見据え、情報収集に努める。又、経営安定が確保できる様、改正後の対応を確立させる。
- ・職員と家族との相互理解を深め、信頼関係の構築に努める。又、面会や各行事への協力を得ながら、家族と一体となって入居者、利用者を支援することで、生活の質の向上を目指す。
- ・提供するサービス等に関して、入居者、家族からの苦情や意見に迅速に対応し、その解決に努める。
- ・入居者が、自分の住み慣れた地域で生活していることを感じる事が出来るよう、地域との関わりを持ち、地域住民やボランティア等を通して地域との繋がりを持つ。

● 実施内容及び反省・課題

1. 入居に至るまでの支援

入居に際しては、相談員中心に多職種と連携し、計画的に事前のアセスメントを実施、入居判定会議は、適時開催し、令和6年度で22名の新規入居者の受入れを行った。今年度は在宅からの新規入居受入が最も多く、10名であった。今年度、新規の特例入居はなし。

2. 稼働安定に向けた取組み

令和6年度の平均稼働率は93.7%、平均入居者数は89.2人であった。稼働安定に向けて、並木、三財病院、関連施設との連携や、他事業所や病院への連絡（空床紹介）を行った。

3. 相談援助

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの影響から、面会の制限があり、職員と家族の交流する機会が少なかった。又活動や行事の制限もあり、家族と一体的な支援も出来ていない。

第二種社会福祉事業である「みやざき安心セーフティネット事業」、「西都市フードバンク事業」、「すっきりクリーン事業」に関しては、R6年度実績なし。

4. 家族との連携

面会が可能な期間が増え、家族とのコミュニケーションは密に行えた。入居者の体調の変化や事故等に関して、速やかにご家族へ連絡し、意向、要望に対し対応するよう努めた。

5. 苦情受付・解決体制

今年度、入居部は0件、短期入所には1件の苦情が寄せられた。内容としては、職員のサービスによる苦情が多かった。対応を改めることで、解決している。今後、職員のサービスの質の向上に向けた取組みが必要と感じる。今年度、第三者委員への申し立てはなかった。

6. ボランティアの受入れ

ボランティア受け入れについてはなかった。

7. 地域との繋がりを持つ

地域行事は行われたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、参加できなかった。施設行事は行ったが、感染対策のため施設内のみでの小規模での実施となった。その為地域との連携や関わりを持つことが難しかった。

(9) 実習受け入れ

● 援助目標

介護・看護の実体験を通して、領域である「人間と会社」「心と身体のしくみ」「介護」「看護」の学習内容を統合させて、看護とは何か理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得し、学びの場にする。又、実習を受け入れることで、ケアの見直し改善へと繋げる。

● 実施内容及び反省・課題

- 1.【介護】妻高等学校1年生～3年生、日章学園高等学校1年生の実習受け入れを行った。また3年生は他事業所が感染対策強化となったため、急遽4名追加で受け入れた。3年生実習期間中に自施設は感染強化となるユニットが発生し、ユニット変更となったためユニット変更となったケースあったが、学校側とも連携し介護過程の実習もできた。実習内容がコロナ前とは違い、コミュニケーション中心となってきている。今後も受け入れ施設として、学校側ともよく協議し実りある実習が行えるよう準備をしたい。
- 2.【看護】令和6年度の実習は全ての期間で実習を行う事が出来た。(延期した期間はあったが)たった2日間という短い実習期間の中特養の看護師の特徴は捉えることが出来たのではないかと思う。2日間という短い期間の為今後も看護師の考え方や動きが分かるように促していきたい。

3.看護介護養成実習状況

学校名	学年	期間	人数	延人数
宮崎医療福祉専門学校 (看護科)	3年	6月11日～6月12日	10名×2日	20名
		7月2日～7月3日	10名×2日	20名
		9月3日～9月4日	4名×2日	8名
		12月10日～12月11日	9名×2日	18名
妻高等学校 (介護福祉科)	1年	7月9日～7月11日	3名×3日	9名
		8月5日～8月6日	1名×2日	2名
		11月26日～12月6日	4名×9日	36名
	2年	9月5日～9月13日	5名×7日	35名
		10月10日～11月27日	2名×13日	26名
	3年	6月11日～6月20日	4名×8日	32名
7月17日～8月2日		4名×12日	48名	
7月24日～8月2日		4名×9日	36名	
日章学園高等学校 (福祉科)	1年	7月22日～8月2日	1名×10日	10名
		11月11日～11月20日	1名×8日	8名
計				308名

(10) ボランティア受け入れ

カフェ運営の手伝いとして、1名受け入れしている。毎週火、金曜日の9時30分～11時30分、13時30分～15時30分で実施。新型コロナウイルス感染症の影響で、カフェ運営が中止となった期間もある。10月1日から、パート職員となっている。

日常ボランティア実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

日常生活状況

令和7年3月31日現在

入居者数89名

区分	食 事			起 座			立ち上がり			排 泄			着脱衣			入浴		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
実数(人)	51	16	22	21	25	43	17	24	47	7	24	58	5	32	52	0	30	59
割合(%)	57	18	25	23	28	49	19	27	54	8	27	65	6	36	58	0	34	66

区分	歩行			ねがえり			車椅子使用			褥瘡あり	おむつ使用	認知症高齢者数
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
実数(人)	3	4	82	15	27	47	23	6	53	2	81	80
割合(%)	3	4	93	17	30	53	29	7	64	2	91	90

2. 短期入所生活介護事業所 三納の里

(1) 利用者の状況

介護度別利用者状況 (延べ数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	4	19	6	2	18	7	16	27	14	13	33	13	172
要介護2	48	54	50	37	39	59	53	59	29	28	26	32	514
要介護3	55	43	39	6	10	10	5	8	23	19	10	8	236
要介護4	0	14	18	11	9	34	40	13	5	5	0	2	151
要介護5	1	4	3	3	3	0	0	9	0	0	2	12	37
計	108	134	116	59	79	110	114	116	71	65	71	67	1110
稼働率 (%)	72	86.5	77.3	38.1	51	73.3	73.5	77.3	45.8	41.9	50.7	43.2	60.9
平均入所者数	3.6	4.3	3.9	1.9	2.5	3.7	3.7	3.9	2.3	2.1	2.5	2.2	3.1

【評価】

7・8月は施設内コロナ感染症拡大により急遽受け入れを中止し対応、12月より西都市内に新事業所の開設があり定期利用者6人が減少した。

併設の施設入居に移行した利用者が7人、利用中止となった方(別施設入居・死亡・位置づけ終了など)11人になった。

新規利用者の利用件数は前年度と変わりはない。その方たちが定期利用にその後併設施設入居に繋がるように事業所内での情報共有を行い、利用者、ご家族が安心して利用できるように多職種、各関係事業所とも連携を密に支援していきたい。

(新規利用者 今年度合計 22名)

4月:3名 5月:4名 6月:0名 7月:1名 8月:0名 9月:4名

10月:1名 11月:3名 12月:2名 1月:1名 2月:3名 3月:1名)

3. 三納の里居宅介護支援事業所 令和6年度評価

(1) 介護度別利用者数 (令和6年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延件数	平均
予防	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.08
要介護1	7	7	8	8	8	8	7	7	6	6	5	6	83	6.9
要介護2	9	10	8	8	8	8	8	10	9	8	10	11	107	8.9
要介護3	6	5	6	8	8	7	7	6	5	6	7	8	79	6.6
要介護4	2	4	3	4	4	5	5	5	5	4	3	3	47	3.9
要介護5	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	3	13	10.8
合計	26	27	26	29	29	28	28	29	26	25	26	31	330	27.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延件数
初回加算	0	0	0	4	1	0	0	1	0	0	1	2	
入院加算Ⅰ	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
入院加算Ⅱ	0	0	0	0	1	3	1	0	1	0	0	0	
退院加算Ⅰ	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	
退院加算Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
死亡者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設入居	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	5
介護度軽	17	17	16	16	16	16	15	17	15	14	15	17	93
介護度重	9	10	10	13	13	12	13	12	11	11	11	14	139

(評価)

1、令和6年度 居宅介護支援状況について、年度開始時26名担当。終了者について5月、6月、12月それぞれ1名入院し終了。7月9月、10月11月12月それぞれ1名施設入所し終了。年間終了者合計8名。

新規者について、7月は3名、予防者から介護者へ変更1名。小計4名。8月11月12月2月それぞれ1名。3月4名。年間新規者合計12名。

上記について、新規者数が終了者数を4名増加した。担当数は開始時26名から令和7年3月31名 5名増加した。

2、感染予防対策(コロナ含む)について、5類に移行し引き続き居宅支援事業所の衛生管理、定期的な車両消毒を施行。訪問前に訪問先の本人やご家族の体調や熱感の確認

を行い訪問した。

また、外出前後での消毒施行や必要時予防対策（必要時の消毒液の携帯やゴーグル着用）実施した。サービス担当者会議も、コロナ感染は継続して発生し事業所実情に合わせ実施した（感染した事業所情報から少人数での実施、もしくは照会とした。）。モニタリングは、30～40分間を目安に終始するよう確認事項整理し工夫し訪問。有料老人ホームに対しては事前相談。面談場所を準備して頂き開催した。また、窓越しに面会実施させて頂いたりもした。

災害対策について、今年度は実際の災害被害は無かった。しかし、4月26日震度3レベルの地震があり、その後、担当者ご家族や本人に電話連絡。連絡が付かない利用者宅訪問し安否確認が実施出来た。2日以内に安否確認行えた。

3. 研修等の参加について、毎月、並木の里居宅介護支援センターで開催される事例検討会参加した。事例の発表も2事例行えた。

その他、介護支援専門員協会が実施する研修に年5回参加した。

4. 医療機関連携について、医療機関関係者と顔なじみとなり、必要な通院支援時に情報共有が出来易い関係性を感じるようになった。

また、入院時は情報提供書とケアプラン持参し、入院先病院訪問し連携室等担当者と出来る限り面談を行った。入院中は、病院ケースワーカーと医師の意見や状態や退院状況など連携をした。入院中の在宅一時帰宅は、年4件関わる事が出来、退院前のチーム連携に繋がる事が出来た。

5.その他

- ・ショートステイについて、前年度まで市内ショートステイ床数は減少していた。利用希望者の対応が困難であった。そのようななか11月市内にショートステイ事業所が開設。利用希望者に繋げる事が出来た。

- ・緩和ケアについて、宮崎ホームケアクリニックとコンタクトが出来た。ニーズのある該当者の医療サービス利用に繋げた。

- ・障がい者について、今年度も障害者手帳所持されている利用者に関して関わる事が有った。福祉事務所や障がい者基幹支援センター職員と情報共有や情報交換、介護保険以外の必要な助言を受ける事が出来た。

また、障がい者基幹支援センターと介護支援専門員協会と連携、橋渡しのサポートをさせて頂いた。

- ・ハラスメント（カスハラ・セクハラ）ケースについて、事案が1件発生した。発見から情報収集。事業所と事業所間で対策を講じた。関係者を招集し共有する場や時間を設け段階的にな準備が出来た。また、その後、対象者や家族に対して、適切な時期

に訪問し面談と方向性を提示出来た。更に対象者家族に対して、県外であるが適切に説明等を行えた。その後、双方の了承を得てサービス再開に繋げる事が出来た。

ネグレクトのケースについて、事案が1件発生した。医療機関医師と包括支援センターと情報共有し、家族のご協力もあり医師が処方を変える等で対応して、家族の対処を変更し、現在は暴力を振るう事もなく継続し様子観察が出来ている。包括支援センターにも定期的に情報提供継続している。

VII 各種委員会

1. 感染対策委員会

● 概要

開催日	協議内容
4月2日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について
5月7日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について
6月4日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について ・結核検診について ・職員健診について
7月2日	・結核検診・コロナ感染症について ・その他の感染症について 健診について
8月6日（書面）	・結核について・コロナ感染症について ・その他の感染症について
9月3日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について
10月1日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について、全体研修（書面）
11月5日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について（インフルエンザ等）
12月3日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について
1月6日（書面）	・コロナ感染症について ・その他の感染症について
2月4日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について
3月4日	・コロナ感染症について ・その他の感染症について ・今年度の反省、評価 ・次年度計画具体案作成

● 評価・反省

8月3日にコロナ感染症を職員・入居者様を多く出してしまった。全て職員からの感染であり持ち込んだ感染である。日々感染者が増えたが重症化した方は1名のみであった。今後もコロナの型が変わり進化していくと思うので、多職種の日々の情報共有、1人1人の意識と対応・予防に努め感染を多く出さないようにしていきたい。又コロナ感染症以外にも目を向けて発信、予防をしていきたい（インフルエンザ、感染性胃腸炎、マダニ等）

2. 褥瘡対策委員会

● 概要

開催日	協議内容
4月2日	・褥瘡発生中 2名 原因・対応策の検討
5月7日	・褥瘡発生中 2名 原因・対応策の検討
6月4日	・褥瘡発生中 3名 原因・対応策の検討
7月2日	・褥瘡発生中 1名 原因・対応策の検討
8月6日（書面）	・褥瘡発生中 1名 原因・対応策の検討
9月3日	・褥瘡発生中 7名 原因・対応策の検討
10月1日	・褥瘡発生中 4名 原因・対応策の検討
11月5日	・褥瘡発生中 2名 原因・対応策の検討
12月3日	・褥瘡発生中 3名 原因・対応策の検討
1月6日（書面）	・褥瘡発生中 0名 原因・対応策の検討
2月4日	・褥瘡発生中 1名 原因・対応策の検討
3月4日	・褥瘡発生中 2名 原因・対応策の検討 ・本年度反省

● 評価・反省

令和5年度と比べると半分以下に褥瘡発生人数は減少していた。褥瘡の程度は浅い方が多く、栄養状態（栄養補助食品使用）体重コントロール、エアマット検討、体交、排泄量に合わせたオムツケア、軟膏等の検討から早めに治癒出来ていた。これからも褥瘡形成者が0になるように多職種とも連携していき動いていきたい。

3. 栄養管理委員会

● 概要

開催日	協議内容
4月2日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について
5月7日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・全体研修会について
6月4日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について
7月2日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について
8月20日 (書面)	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・食中毒予防について
9月3日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・食中毒予防について
10月1日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・食中毒予防について
11月5日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・食中毒予防について
12月3日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について
1月7日 (書面)	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について
2月4日	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・食中毒予防について
3月4日 (書面)	・入居者喫食状況および栄養管理について ・衛生管理について ・行事食について ・食事関係加算について ・食中毒予防について

● 評価・反省

・昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため書面による委員会開催月もあったがしっかりと情報伝達等ができたと考える。

4. 衛生委員会

● 概要

開催日	協議内容
4月2日	・年間計画の確認 ・職員健康状態の把握 ・職場巡視結果の報告
5月7日	・職場巡視結果の報告 ・夜勤者の健康診断について ・職員健康状態について
6月4日	・職場巡視結果の報告 ・夜勤者の健康診断について ・職員健康状態の把握
7月2日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について
8月6日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について（書面）
9月3日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について
10月1日	・職場巡視結果の報告 安全衛生教育 職員健康状態について
11月5日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について
12月3日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について
1月6日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について（書面）
2月4日	・職場巡視結果の報告 ・職員健康状態について
3月4日	・職場巡視結果の報告 ・今年度の反省 ・職員健康状態について

● 評価・反省

体調不良の職員に関して、連絡がかかってきたら症状を聞いてアドバイスを行っていった。重症化まではいかず早めの仕事復帰へ繋がった。今後もこのように継続していきたい。休職中の職員もいる為状態確認を行っていき復帰できるよう動いていきたい。

5. リスクマネジメント委員会

● 概要

開催日	内 容
4月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度計画確認 ・前年度アクシデント・ひやりはっと報告について ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・4月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
6月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・5月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
7月16日 （書面）	<ul style="list-style-type: none"> ・6月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
8月20日 （書面）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
9月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・8月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・9月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット使用状況）
11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・10月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット、ディンプルマットレス使用状況）

開催日	内 容
12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・11月アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット、デインプルマットレス使用状況）
1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・12月アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット、デインプルマットレス使用状況）
2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・1月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット、デインプルマットレス使用状況）
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・2月分アクシデント・ひやりはっと報告 ・各部署、事故発生防止に向けた取組 ・身体拘束、虐待について ・福祉用具について（フットコール、エアマット、デインプルマットレス使用状況）

● 評価・反省

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、書面会議が2回あった。全体研修会にて「身体拘束・虐待予防」を年2回、「事故発生防止」を年2回実施した。身体拘束、虐待該当者なし。今年度も各部署ごとで前期、後期に分けて、事故発生防止に向けた取組を実施した。各部署、意識改革に繋がったという評価あった。

6. 防災・防犯対策委員会

● 概要

開催日	内 容
4月16日	・今年度 事業計画確認 ・緊急連絡網について ・その他について
5月21日	・垂直避難訓練について ・その他について
6月18日	・垂直避難訓練について ・その他について
7月16日（書面）	・水害訓練の振り返り ・BCPについて ・その他について
8月20日（書面）	・総合防災訓練について ・BCPについて ・その他について
9月14日	・総合防災訓練について ・BCPについて ・その他について
10月15日	・総合防災訓練について ・BCPについて ・その他について
11月19日	・防災訓練の振り返り ・BCPについて ・その他について
12月17日	・総合防災訓練について ・BCPについて ・その他について
1月21日	・総合防災訓練について ・BCPについて ・その他について
2月18日	・総合防災訓練について ・BCPについて ・その他について

開催日	内 容
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合防災訓練について ・ BCP について ・ 今年度の振り返り

- ・ エレベーター点検 3 回、消防設備点検 2 回実施した。
- ・ 交通安全運動週間に合わせ、のぼり設置行った

○今年度の振り返り

今年度も、コロナ感染症対策にて、書面開催が 2 回あった。BCP の書類は完成しており、配布済み。訓練は、6 月に水害、10 月に総合防災訓練（夜間）、3 月に総合防災訓練（日中）実施している。BCP は、8 月と 1 月の全体研修会にて、研修と訓練を実施している。

7. 福祉用具検討委員会

● 概要

開催日	協議内容
R6年4月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
5月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
6月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
7月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
8月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
9月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
10月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
11月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
12月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
R7年1月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
2月	福祉用具の使用状況の確認を行う。
3月	福祉用具の使用状況の確認を行う。

● 評価・反省

- ・3か月に1回以上の頻度で委員会を開催予定であったが、報告のみで終わった。
- ・フットコールやエアマットの使用状況は毎月の委員会で話し合いが行われ必要性の有無や使用状況の把握はできた
- ・車椅子など故障（パンクなど）したのを修理せずにそのままにしていたり、各種類の車椅子の台数など把握できていない。
- ・福祉用具全部の把握は難しく、すべての福祉用具の把握はできていない。
- ・各種類の車椅子やエアマットの台数が足りていない。

8. 医療的ケア推進委員会

● 概要

開催日	協議内容
R6年4月2日	認定特定行為事業者確認、年間計画確認
5月7日	三納の里が実地研修登録された時の動き
6月4日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
7月2日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
8月6日(書面)	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
9月3日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
10月1日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
11月5日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
12月3日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
R7年1月6日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について (書面)
2月4日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について
3月4日	喀痰吸引が必要な入居者、経管栄養実施者について

● 評価・反省

吸引人数が増えている傾向である。突然の嘔吐、疾患からの予防的吸引が多くなっている。疾患から予防できることがある為(口腔ケアの徹底・背部タッピング・嘔吐時の対応)看護から介護への指導を常に実施していきたい。又吸引指導看護師が2名に増えた為今後少しでも動いていけるようにしていきたい。

VIII 資料（各種研修会参加実績）

1. 令和6年度 職員研修年間実績

月	OJT（職場内研修）	OFF・J T（職場外研修）	職場内	SDS	
				職場内	職場外
4	4 全体研修	4 九州経済研究所セミナー(副理事長・緒方)			
5	2 全体研修	21.22 防火管理新規講習(松田) 20 令和6年度宮崎社会福祉法人経営者協議会(緒方)			
6	6 全体研修	6 労務管理研修1(オンライン)(谷村)			
7	4 全体研修	30 社員教育特別セミナー(緒方) 2.23 No.106 会計・財務管理研修(俵)			
8	1 全体研修	5.6.14.15.19.20.30 令和6年度主任介護支援専門員更新研修(緒方)			
9	5 全体研修	9.17.27 令和6年度主任介護支援専門員更新研修(緒方) 19 令和6年度西都市権利擁護研修(手塚)			
10	3 全体研修	4 施設ケアマネジメント研修(オンライン)(松田) 10 令和6年度主任介護支援専門員更新研修(緒方)			
11	7 全体研修	1 令和6年度九州老人福祉施設職員研究大会(緒方・松田) 5.21 令和6年度主任介護支援専門員更新研修(緒方) 16 R6年度喀痰吸引研修(海野) 15 認知症介護基礎研修(安藤晴) 29 特養県北ブロック生活相談員研修会(津嶋)			
12	5 全体研修	6 令和6年度第2回特養県北ブロック施設長会(緒方) 10 施設ケアマネージャー研修会(押川・手塚)			
1	9 全体研修(書面)	16 デジタル中核人材養成研修(副理事・緒方・津嶋) 28 苦情解決セミナーの受講(津嶋)		30	令和6年度宮崎県経営協会セミナー(緒方)
2	6 全体研修	7 認知症介護基礎研修(アス・クスム) 19 認知症介護基礎研修(ママタ) 21 デジタル中核人材養成研修(副理事・緒方・津嶋)			
3	6 全体研修	14 令和6年度第3回特養県北ブロック施設長研修(緒方)			